

No. 1118

世代間に理解と連帯を

爆発する若者たちのエネルギー。若者がスピードに狂い、ロックに酔う時、大人はそれが理解できないという。世代の断絶を埋めることをねらった「世代間の理解と連帯を深める懇談会」は6月9日、首相官邸で開かれました。懇談会のメンバーは10代から70歳代までの男女14人と報道関係者8人の計22人で植木総務長官のあいさつのあと全員が発言しました。50歳の代表石井さんは“私自身かえり見ても人間というのはその年頃によってだんだん考え方もちがってくる訳ですから、その意味で若い人は気ままだとか、うぬばねだといって押さえることはできませんし、そのことによって進歩があるのではないかと思っています。”

10年代代表の遠藤君は“我々若者というのはこういう年寄に接することはめったにない。それで多くの方々に意見を伺い少しでも自分の生活とどの辺が違うかをわかることで意義があると思う。”また40歳代代表の中村さんは“暴走族の問題でも、自分でコントロールのつく人間に育てなければならないなあと思いました。深夜放送という微妙な時間帯でまる5年間若い人とつきあってきていろんなことを語り合ってきたんですけど、その中で一番感じたことは親が手を抜いて育てているなという実感です”懇談会は今後も討論を重ね、7月末に結論を出す予定です。

佐藤元首相国民葬

故佐藤栄作元首相をいたむ国民葬は、六月十六日しめやかに行われました。喪主・寛子夫人の胸に抱かれた遺骨は、佐藤さんゆかりの国会議事堂を通り、国民葬の行われる日本武道館へ。式場には皇族方をはじめ各国から弔問使節が参列、佐藤さんの死をいたみました。

午後一時五十分頃、遺骨到着を出迎えるため日本武道館正面玄関へたった三木首相は、突然暴漢に襲われ、あおむけにたおれました。犯人・筆保泰禎（ふでやす・ひろよし・34才）は逮捕歴八十一回という札つきの右翼、幸い三木首相は軽傷ですみ、その後の式典では無事葬儀委員長を務められました。

遺骨は、十九発の弔報と防衛庁儀仗隊に迎えられ式場に到着。葬儀委員長三木首相に手わたされた遺骨は、白と黄と赤いカーネーションで「日の丸」を型どった式壇の上に安置されました。午後二時十分黙祷。

皇族方をはじめ九十一ヶ国の外交使節など各界から六千人が参列した盛大な国民葬は、輝かしい故人の生前の活躍を、あらためて参列者に思い起させました。